

都道府県名：群馬県 団体名：長野原町

地域

首都圏の水源地の一つである長野原町は、群馬県北西部に位置し、その約8割が山林や原野であり、南北に細長い地形と標高差が約1,000mあることから、豊かな自然に恵まれています。

「ハッ場あがつま湖」や日本ジオパークに認定された「浅間山北麓ジオパーク」、高原リゾート地である「北軽井沢地区」など、多彩な自然を活かした新たな発展が期待されています。

経緯

昭和27年5月にハッ場ダム建設計画が発表されると、地元住民による建設反対運動が繰り広げられましたが、ダム計画や生活再建の説明会が開催される中で、やむを得ず同意する地元住民も現れはじめ、徐々に地域が分断される深刻な事態に陥りました。

このような状況を危惧した長野原町が、地元住民と国や県の間に入って様々な役割を果たした結果、平成4年7月に「ハッ場ダム建設事業に係る基本協定書」を国及び県と締結し、ダム建設を大きく前進させました。

平成21年9月に国からダム建設中止が発表された際には、地元住民や1都5県知事と連携して中止撤回活動を展開し、平成23年12月にダム建設継続が表明されました。

こうして、予備調査着手から68年もの歳月を経てハッ場ダムが完成しました。

功績内容

ハッ場ダム建設に反対していた地元住民と国及び県との調整や、ダム建設が進む中で発表された建設中止に対する撤回活動など、ハッ場ダム建設による首都圏の重要な水資源開発に大きく貢献しました。

平成4年から、地元と下流都県の子供たちによる交流事業を行い、水の大切さについて意識を高め、相互理解を深める取組を行っています。

「ハッ場ダム水源地域ビジョン」に参画し、水資源を有効活用した「水陸両用バス」の運行や、水源地を保全する「やんば1万本桜プロジェクト」(桜の植樹)に取り組んでいます。



H4 基本協定書締結



水陸両用バス



上下流交流(魚のつかみ取り)



植樹した桜